

簿記検定 過去問講座

簿記3級 問題集

本書の使い方

本書は過去の本試験問題をテキストに出てくる順に掲載してありますので、テキストを前から読みながら、問題演習することができます。

章がまたがる問題については、原則として、後ろの章に掲載しました。

会計基準の変更などにより、一部問題を変更している箇所があります。

すべての問題について、

難易度を表示しました。

- A…… やさしい問題で取りこぼしのできない問題
- B…… ややむずかしいがとらなければならない問題
- C…… かなりむずかしいが50%ぐらいの確率で解ける問題
- D…… 超難問で誰も解けないので演習不要の問題

解答時間の目安を表示しました。

出題年次を明示しました。

Q4-3

すでに普通預金口座を開設している東西銀行品川支店に、新たに当座預金口座を開設し、普通預金から¥200,000を引き出して、当座預金に預け入れた。同時に、借越限度額を¥500,000とする当座借越契約も結んだ。なお、当座預金からの借越については、当座借越勘定を用いることとした。

この問題は、やさしい問題で、解答時間の目安は1分、第112回に実施された、第1問であることを示します。

問題演習のしかた

問題演習はあくまでも力をのばすためにやるのです。単に答えがあっているか否かが大切ではなく、答えを導くまでの過程が大切です。ですから、以下のようにやってみてください。

- ① 一冊自分のノートを作り、それぞれ理由を書きながら解いて下さい。これは、時間がかかりますが確実に実力がアップします。
- ② 問題集は何回も繰り返し学習するため絶対にボールペン等で書き込みをしないようにして下さい。また、鉛筆使用の場合でも強く書くと、跡が残りますので、強く書かないようにして下さい。
- ③ はじめは時間がかかると思いますが、徐々に解くスピードが早くなりますので、はじめのうちは時間を気にしないでください。
- ④ 終了後解説をみて答えあわせをしてください。この際、以下のことを守ってください。
 - 重要だと思ふことはテキストの余白に書き込んでください。
 - 答えあわせにおいて重要なことは答えが正しいかどうかではなく、自分の考えたプロセスが正しいかどうかです。自分のノートと解説をよく見比べてください。
 - 答えあわせの後、次回演習の目安とするため、問題に○・△・×のいずれかを記入してください。

- …… 正解し、理解しているので再学習不要
- △ …… 正解だが考え方が不安なので再度学習
- × …… 不正解、理解していない

	Q1	Q2	Q3	Q4	5						
Date	10/1	10/2	10/4								
Time	2'45"	2'10"	1'30"								
	1	2	3	4	5						
	1	2	3	4	5						
	1	2	3	4	5						

以上の方法により、過去問を3回以上繰り返してください。なお、2回目以降は前述の△・×の記載のある問題を中心に演習しましょう。

受講生から、よく「私は同じ問題を何度も同じ箇所間違えるのですが」と相談を受けます。人間誰も同じ過ちを繰り返すものです。間違えた問題には根気をもって何度も挑戦してみてください。

STEP

1

簿記をはじめよう！

☞ 該当過去問なし

STEP

2

簿記の流れを
概観してみよう！

☞ 該当過去問なし

STEP

3

現金取引を
マスターしよう！

Q 3-1	1	Date	Time	2	Date	Time	3	Date	Time	4	Date	Time	5	Date	Time
Q 3-2	1			2			3			4			5		
Q 3-3	1			2			3			4			5		
Q 3-4	1			2			3			4			5		
Q 3-5	1			2			3			4			5		
Q 3-6	1			2			3			4			5		
Q 3-7	1			2			3			4			5		

I 次の仕訳を行いなさい。

Q3-1

A 2'00" 110-1

従業員が立て替えていた電車賃 ¥600 を現金で支払っていたが、未記帳であることが判明した。なお、昨日、週1回の現金実査を行い、現金過不足勘定の借方に ¥800 の記入を行っている。雑損または雑益への振り替えは、決算日に行うこととしている。

Q3-2

A 2'00" 115-1

現金の実際残高が帳簿残高より多かったため、現金過不足勘定で処理されていた ¥8,500のうち、¥7,000 は受取手数料の記入漏れであることが決算日にいたり判明した。残額については不明のため、適当な科目に振り替えることにした。

Q3-3

A 2'00" 117-1

決算にあたり、現金の手許有高を調べたところ、帳簿残高は ¥280,000 であるのに対して、実際有高は ¥275,000 であった。この現金不足額のうち ¥3,300 は、従業員個人が負担すべき交通費を店の現金で肩代わりして支払った取引が未記帳であったためであると判明したが、残りの現金不足額の原因は不明である。

Q3-4

A 2'00" 123-1

月末に現金の実査を行ったところ、現金の実際有高が帳簿残高より ¥21,000 過剰であることが判明したため、帳簿残高と実際有高とを一致させる処理を行うとともに、引き続き原因を調査することとした。なお、当店では、現金過不足の雑益または雑損勘定への振り替えは決算時に行うこととしている。

II 次の問に答えなさい。

Q3-5

A 12'00" 114-2

次の資料にもとづいて答案用紙の小口現金出納帳に記入し、さらに週末における締切りも行いなさい。なお、当店は従来より定額資金前渡制度(インプレスト・システム)を採用している。また、小口現金の報告および小切手による補給は毎週末の金曜日に行われ、小口現金は ¥50,000 で次週に繰り越されている。

(資料)

11月	1日(月)	コピー用紙	¥3,400	新聞購読料	¥4,000
	2日(火)	切手・はがき	¥7,500	電車運賃	¥2,000
	3日(水)	バス運賃	¥3,200	ボールペン	¥1,900
	4日(木)	携帯電話通話料	¥6,400	お茶菓子	¥1,700
	5日(金)	タクシー運賃	¥2,800	伝票用紙	¥3,000